

[ 成果情報名 ] 温州ミカンにおけるミカンサビダニの発生活長

[ 要約 ] 温州ミカン春葉におけるミカンサビダニの発生活長は6月中旬に発生ピークとなる。その後果実に移り、7月中旬に果実上で発生ピークが見られる。また、9月以降に再び果実上での発生ピークがある。

[ キーワード ] ミカンサビダニ、発生活長、温州ミカン

[ 担当 ] 長崎果樹試・病害虫科

[ 連絡先 ] 電話 0957-55-8740、電子メール s00660@pref.nagasaki.lg.jp

[ 区分 ] 果樹

[ 分類 ] 指導

-----  
[ 背景・ねらい ]

近年発生が増加しているミカンサビダニは、従来はマンゼブ水和剤等で黒点病との同時防除が可能であったが、薬剤抵抗性の発達により難防除害虫となっている。そこでミカンサビダニの効率的な防除体系を確立するため、本種の発生活長を明らかにして防除適期を明確にする。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1 . 1月に芽の中の越冬量が多いと前年の果実被害程度にかかわらず、翌年の果実の前期被害(7月)は多い(表1、図2)。
- 2 . 春葉における寄生虫数は、6月中旬に最大となり、その後果実での増加が確認される(図1、図2、図3、図4)。
- 3 . 果実では7月上旬に虫数のピークが見られ、8月下旬以降にもピークがある(図2、図4)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1 . ミカンサビダニの発生ピークに合わせ薬剤防除に利用できる。
- 2 . 防除適期は果実に移る7月中旬よりも早い時期と8月下旬が考えられる。8月下旬の慣行の防除体系で散布される殺ダニ剤にはミカンサビダニにも効果があるものを使用する。また、多発時は他にも追加防除が必要である。

[ 具体的データ ]

表1 ミカンサビダニの越冬状況

樹名	H15果実被害	調査葉芽数	越冬芽数	越冬頭数 / 芽	H16果実被害
NO.9	中	50	39	7.9	多 (前期被害)
NO.15	中	50	36	6.6	少
NO.12	多	50	33	4.7	多 (後期被害)
NO.13	中	50	32	2.5	多 (後期被害)
NO.7	少	50	28	2.8	少

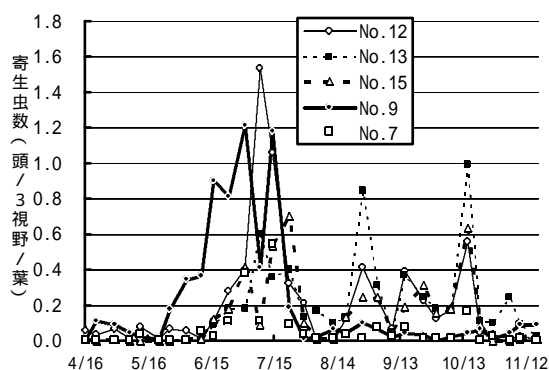


図1 春葉におけるミカンサビダニの寄生虫数 (2004)

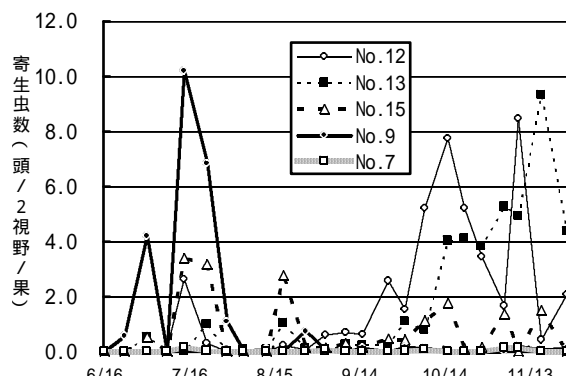


図2 果実におけるミカンサビダニの寄生虫数 月日 (2004)

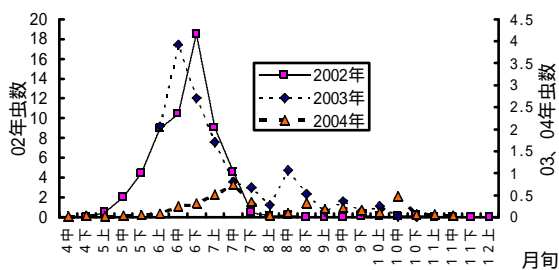


図3 3年間のミカンサビダニ発生消長 (春葉)

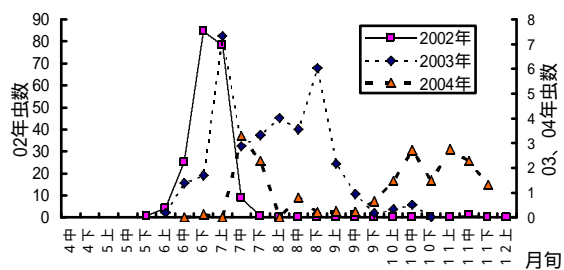


図4 3年間のミカンサビダニ発生消長 (果実)

[ その他 ]

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

予算区分：県単

研究期間：2002～2004年度

研究担当者：宮崎俊英、中村吉秀、早田栄一郎